Panaracer Tubeless For MAVIC UST
UNIVERSAL SYSTEM FOR TUBELESS

取扱説明書
●この取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご使用ください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

ご使用前に
▼この商品は、オフロード自転車競技専用のチューブレスタイヤです。
他の目的には使用しないでください。
▼この商品は、MAVIC社 UST規格に適合したチューブレスタイヤです。
UST規格外のリム使用による安全性及び性能は保証対象外です。
▼取扱い説明のうち、USTリムに関するものはリムの取扱説明書をご確認ください。

安全上のご注意 （必ずお守りください）

⚠警 告

■タイヤの取りつけ・取りはずしの際にタイヤレバー及びその他の工具類を使用しない
空気もれが起こり転倒の原因となります。

■タイヤの取りつけ・取りはずしの際潤滑剤として石けん水以外のものを使用しない
走行中にタイヤが脱落し転倒の原因となります。

■タイヤの空気圧は、240～400kPaの範囲内を保つ
空気もれが起こり転倒の原因となります。
（100kPa=1kgf/㎠）

■パンク修理は必ず専用の修理キットを使用する。（パンク穴が3ミリ以下の場合のみ）
※Panaracerチューブレスタイヤリペアキット（別売）
空気もれが起こり転倒の原因となります。

■タイヤのパンク穴の大きさが３ミリ以上の場合は直ちにタイヤの使用を中止する
空気もれが起こり転倒の原因となります。

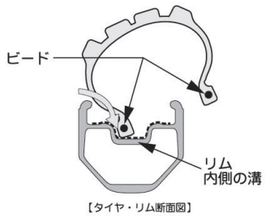
■ひび割れや傷、変形が生じた場合は直ちに使用を中止する
空気もれが起こり転倒の原因となります。

お願い
●パンク修理の際は、「Panaracer チューブレスタイヤリペアキット」（別売）をご使用ください。リペアキット付属の取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご使用ください。
●空気を入れる際は、必ずフロアポンプをご使用ください。携帯用ハンドポンプ、ミニポンプ、またはフットポンプでは空気が入らない場合があります。
●この商品は空気圧管理が重要です。ご使用になるフロアポンプは必ずゲージ付か、または、別途タイヤ空気圧測定ゲージ（仏式バルブ用）を準備してください。
●保管に際しては、リムに装着した状態で軽く空気を入れ冷暗所に置いてください。
●直射日光や雨の当たる場所、ストーブ等の熱源の近く、ガソリン・有機溶剤・油類のあるところに置かないでください。
●商品に関する質問等は、お買い上げの販売店または「お客様相談室」にお問い合わせください。
●購入直後の製品でも、在庫の保管期間や状態によっては経年変化によりタイヤに亀裂を生じたり劣化、変色している場合があります。装着前に異状があった場合、使用せずご購入店または弊社「お客様相談室」へご相談ください。

お問い合わせは・・・お客様相談室 0570-005381（通話料有料）土日祝祭日休業日を除く 9：00～17：00

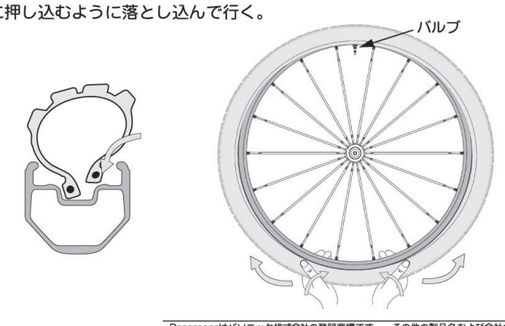
タイヤの取りつけかた

①片側のビードをリム内側の溝に落とし込む。その際、落とし込み作業はバルブの反対側から始め、バルブの位置で終わるようにする。
※落とし込みがしにくい場合は、リム内側を少量の石けん水で濡らすと落とし込みが容易になる。
（------- 点線部分 ）
※石けん水以外のものは使用しない。
※リム内側およびタイヤビード部の泥等の汚れは必ず取り除く。

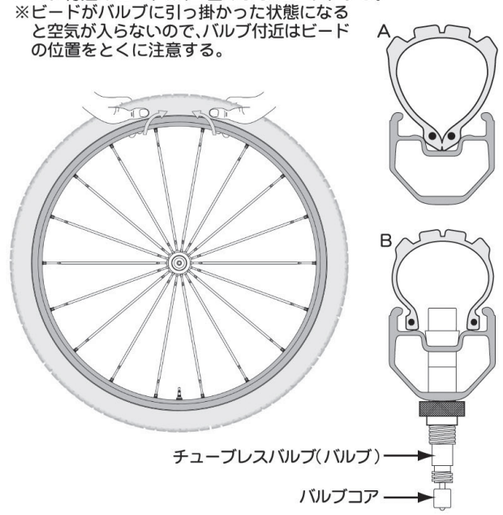


【タイヤ・リム断面図】

②もう片方のビードを①の作業と同様にバルブの反対側から始め、バルブの位置で終わるように落とし込む。
落とし込み作業は、下図のように、両手の親指でビード部をリム内側に押し込むように落とし込んで行く。



③両方のビードの落とし込み作業が終了した後、A 図のように両方のビードがリム内側の溝に正しく落ち込んでいるのを確認する。
バルブ付近のビードは、B 図のようにセットする。
※ビードがバルブに引っ掛かった状態になると空気が入らないので、バルブ付近はビードの位置をとくに注意する。



④空気もれが起こらないように、ビードがリム内側の溝にフィット（③の状態）しているか全周にわたり再度確認する。とくにバルブ付近を注意する。
※もしタイヤが折りたたまれた状態で保管され、ビード部に変形や傷がある時は、空気もれを起こす場合があるのでとくに注意する。

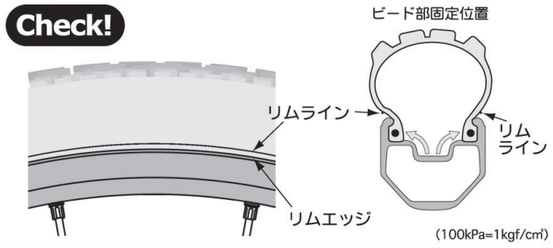
Check!
■全周にわたりビード部をチェックする。

⑤チューブレスバルブのキャップをはずし、バルブコアを緩める。
空気圧ゲージ付フロアポンプを使用し、空気圧をチェックしながら、勢いよく空気を入れるとビード部が下右図のように固定される。
※この際、空気圧は 400kPa 以上入れてはいけない。

次に空気を一旦抜く（ 0kPa）。その時タイヤの左右両面のリムライン（下図矢印 ➡ ）とリムエッジがタイヤ全周で平行になっているかを確認する。
※タイヤのリムラインとリムエッジが平行になれば、ビードがリムに正しくセットされたことを意味する。
※正しくセットされない場合は、③から作業をやり直す。

最後に、再度空気を入れ指定空気圧（240～400kPa）の範囲内で空気圧を調整する。バルブコアを締め、キャップを装着して取りつけ作業終了。

Check!



（100kPa=1kgf/㎠）

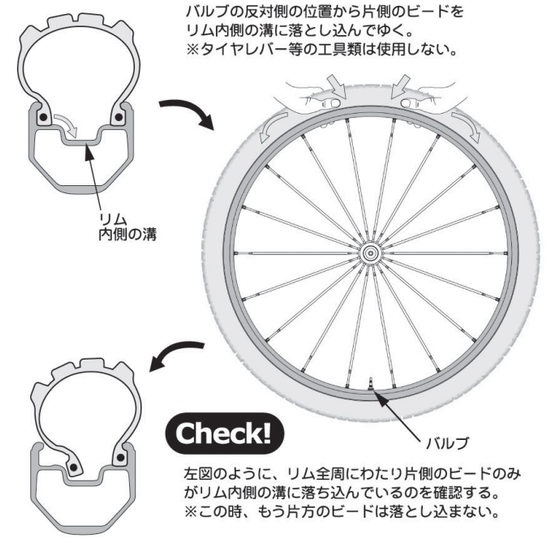
空気が入らない時
■ビードが正しい位置におさまっていない。▶「タイヤの取りつけかた」の③を確認
■ビード部に傷または変形がある。▶「安全上のご注意」を確認
■リム内側やビード部に泥等が付着している。▶「タイヤの取りつけかた」の①を確認
■空気容量の少ないポンプを使用している。▶「お願い」を確認
■バルブのロッキングリングが緩んでいる。▶UST リムの取扱説明書を確認
■バルブのパッキンを入れ忘れている。▶UST リムの取扱説明書を確認

Panaracerはパソニック株式会社の登録商標です。 その他の製品名および会社名は、その会社の商号、登録商標または商標です。

Panaracer Tubeless For MAVIC UST
UNIVERSAL SYSTEM FOR TUBELESS

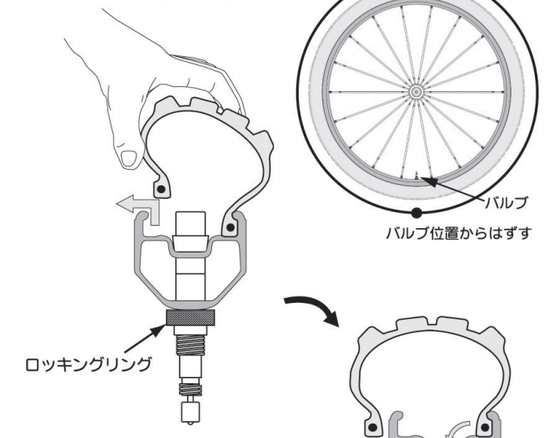
タイヤの取りはずしかた

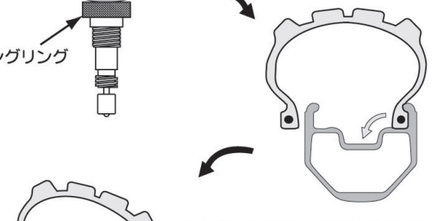
①キャップをはずし、チューブレスバルブのコアを緩め、空気を完全に抜く。

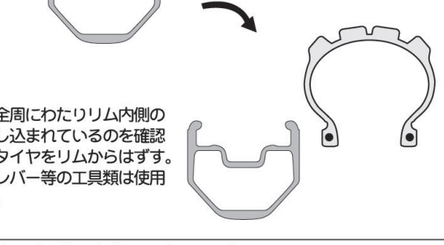


左図のように、リム全周にわたり片側のビードのみがリム内側の溝に落ち込んでいるのを確認する。
※この時、もう片方のビードは落とし込まない。

②落とし込んだ側のビードをリムからはずす。
この時、バルブの位置から始める。





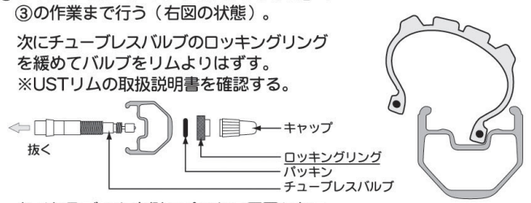


パンクした時

パンク修理の場合は、必ず「Panaracer チューブレスタイヤ修理キット」（別売）を使用し、付属の取扱説明書をよく読み正しく使用する。

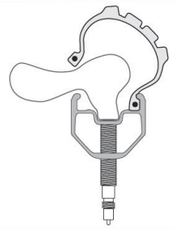
チューブを使用する場合は、以下の手順に従う。

①まずはじめに「タイヤの取りはずしかた」の③の作業まで行う（右図の状態）。
次にチューブレスバルブのロッキングリングを緩めてバルブをリムよりはずす。
※USTリムの取扱説明書を確認する。

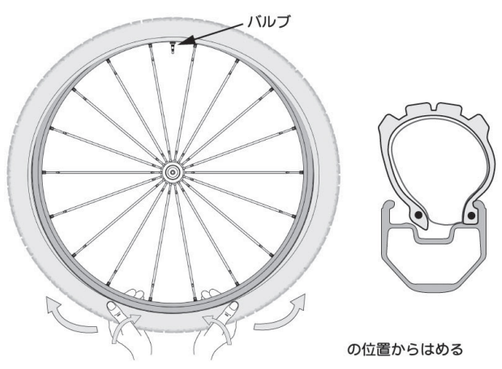


タイヤ及びリム内側にパンクの原因となるようなものがないかチェックする。

②右図のように、空気を少し入れたチューブをセットする。
この時、リムのバルブ穴の位置からセットしてゆく。
※この時、チューブがタイヤ内でねじれたり、重なったりしないように注意する。

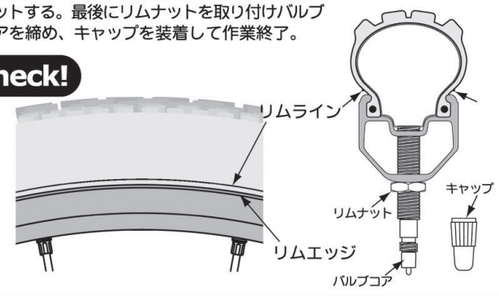


③次にビードをはめる。バルブの反対側からビードをリムにはめてゆく。最後にバルブの位置ではめ終える。
※空気を入れる前に必ずチューブを挟んでいないかチェックする。
※リム内側を少量の石けん水で濡らすとはめ込みが容易になる。
※石けん水以外のものは使用しない。
※タイヤレバー等の工具類は使用しない。



④指定空気圧（240～400kPa）の範囲内で空気を入れ、下図のようにタイヤのリムラインとリムエッジがタイヤ全周で平行になるようにセットする。最後にリムナットを取り付けバルブコアを締め、キャップを装着して作業終了。
（100kPa=1kgf/㎠）

Check!



Panaracer is a registered trademark of Panasonic Corporation.

Printed in Japan TL-0907